

# Book Review

## 臨床家のための 口腔疾患診断トレーニングブック

神部芳則・笹野高嗣 編著

● ● ●

Reviewer

北川善政 Yoshimasa Kitagawa

(日本口腔診断学会副理事長、日本口腔顎顔面外傷学会理事長  
北海道大学大学院歯学研究院 口腔病態学講座 口腔診断内科 教授  
北海道大学病院 副病院長 歯科担当)

AB判, 122頁  
オールカラー  
定価(本体8,100円+税)  
医歯薬出版刊



このたび、「臨床家のための口腔疾患診断トレーニングブック」という、特に研修医、あるいは若い臨床家の日々の臨床に役立つきわめてユニークで素晴らしい書籍が出版されました。筆頭編著者の神部芳則先生は、この書の出版の前に、すでに同じ出版社から「臨床家のための口腔粘膜疾患 Check Point」「臨床家のための口腔疾患カラーアトラス」の2書籍を出版されており、それぞれこのBook Reviewで紹介されています。同じ著者がBook Reviewに3度登場は、過去に例がない快挙だと思います。口腔内科の領域で日本のビッグネームであられる神部先生のたゆまぬご努力に敬意を表し、歯科界へのご尽力に感謝申し上げます。

本書の特筆すべき一番の特徴は、臨床現場でさまざまな症状を訴えて患者さんが来院したことを想定し、臨場感にあふれ、とても見やすく、わかりやすく症例提示されていることです。従来の多くの教科書では、疾患概念・病態・診断・治療法という形式で編集されています。したがって、歯科学生は領域ごとに個々の疾患をタテに勉強す

るのが一般的でした。しかし、臨床の現場に入ると教科書や講義通りにはいきません。実臨床は、さまざまな訴えの患者に遭遇するchallengingな現場です。症状、徴候からもっている知識を統合し、疾患をヨコにみることが求められます。すなわち、考え方を一変しなくてはなりません。

互いの疾患の特徴や鑑別点を正しく理解し、さまざまな検査結果や臨床情報を統合し、確定診断にたどり着くというプロセスが重要となります。本書はこの診断にたどり着くプロセスを体感できる、画期的な書籍であると確信しています。

本書の第1章では、診断の進め方の基本事項がわかりやすくまとめられています。第2章では最初のページに、さまざまな症状を訴えて患者さんが来院したことを想定し、具体的な症例を提示されています。簡単な病歴、興味深い症例写真を眺めて、考え得る鑑別診断を思い浮かべてください。次のページには鑑別診断に役立つヒントがピックアップされ、確定診断に至るプロセスを体感できる、ワクワクした

構成になっています。

今までの歯学教育には、「症候学」の教育が不足していました。症候学とは、患者さんの示すさまざまな訴えや診察所見を定義・分類して意味づけを与える方法論です。適切な診断へのアプローチの第一歩は、本書が強調している症状と徴候の把握からです。たとえば、頸部の腫瘍をきたした患者さんや開口障害をきたした患者さん、口腔内に水疱を有している患者さんなどを診察する際、症候から疾患を類推する方法も、簡潔に的確に示されています。

神部先生と日本口腔診断学会の前理事長の笹野高嗣先生との最強コンビで執筆編集された本書は、長年の経験とたゆまぬご努力により、数多くの貴重な症例を集積されて完成しました。このように、本書の内容は、若い歯科医師にはもちろん、経験を積んだ臨床家にとっても大変有益であると思います。本書を緊張の臨床の現場でのトレーニングとして活用いただければ、口腔医療に貢献すること大であると確信しており、自信をもって本書を推薦させていただきます。